



亀中だより

No.36 令和5年1月10日 文責:岡田

For The Students!

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、清々しい新年を迎えられたことと存じます。寒さが厳しい新年の幕開けではありましたが、大きな事件等に巻き込まれることもなく、無事に3学期を迎えることが出来ましたこと、ひとえに保護者・地域の皆様をはじめ、関係諸機関の方々の見守りのおかげと感謝申し上げます。



さて、生徒のみなさんは左の扁額※(複製)を知っているでしょうか。実は12月14日、亀山市教育委員会より第1棟玄関の正面に掲示していただいたものです。学校だよりでは、昨年も今年も第1号で「明倫館(舎)」について触れてきましたが、我が亀山中学校はこの亀山藩藩校「明倫館(舎)」の跡地に立地しているのです。

※扁額…建物の内外や門・鳥居などの高い位置に掲げられる額(看板)

学びの伝統を受け継ぐ亀中生に…

「明倫館(舎)」は、亀山藩主石川家の家臣の読書場として設立されました。そこには石川家の蔵書と古今の和漢洋書によって構成される「明倫舎(館)文庫」が成立し、現在もこの一部が歴史博物館に収蔵されています。この「明倫舎(館)文庫」はその後、1928(昭和3)年に設立された亀山町立図書館に受け継がれていきましたので、亀山市立図書館の原点となりうるものです。そのため、この扁額は1月26日に開館する亀山市立図書館(1階カウンター前)にも掲げられます。

「皆、人倫(じんりん)を明らかにする所以(ゆえん)なり」

「明倫館(舎)」の名称の由来は、中国古典の「孟子(もうし)」の一節である「皆、人倫(じんりん)を明らかにする所以(ゆえん)なり」にあります。その意味は、「教育によって人の道を明らかにして教え導けば、みなそれに感化されて互いに親しみあい国は大いに治まる」です。現在の亀山中学校においても、すべての教育活動を通して、自らを高めることはもとより、人としての生き方や他者とのかかわり方を学び、たがいに親しみ合える仲間へと成長していくことを願います。

「明倫館」の名のもとに…

生徒のみなさん、2023年が始まりました。3学期はしめくり、まとめの時です。残された時間で、自ら目指した学級目標などの実現に取り組んでください。

特に3年生にとっては今の仲間と過ごす時間も少なくなってきました。3学期の始業式から卒業式までの登校日数はちょうど40日です。

冬来りなば春遠からじ…。

進路実現に向けた取り組みもいよいよ本番です。これからクラスの誰かが受検(験)のために学校を休む日もあるでしょう。みんなでそれぞれの進路実現に向けて、応援し合う、まさに「明倫館」の名にふさわしい活動にしていきましょう!

